

皆様あけましておめでとうございます。

昨年の国内の鉄スクラップ市況は安定していたと思います。それまでの約2年間は、年間で1万数千円から2万円程度、市況が動いておりました。昨年は、年末に少し落ちましたが、数千円の範囲内で動いた1年だと思います。

世界の鉄スクラップ流通に影響を与えた中国についてですが、地条鋼が撤廃されたことと内需の振興策によって、中国国内の鋼材市況が上がり、その帰結として製品、半製品の輸出が激減しました。それが鉄スクラップを含めた国際鉄鋼マーケットの安定につながったと思います。ただ昨年のは、中国の景気後退の兆候などの要因によって、国際市況に変化が生じ鉄スクラップ市況にも動きが出たと思います。鉄スクラップの活用という面では、中国が電炉の生産拡大に舵を切ったのが大きなインパクトでした。そのため電極の高騰という現象が起こり、電炉業界としては新たなコストの塊が登場したことで頭が痛い日々です。

現在の世界の粗鋼生産は、年間約17億トンあり、その中で鉄スクラップ由来の粗鋼生産量は概ね3割だと思います。その理由の一つは鉄鋼の備蓄が、そこまで届いていないことだと思います。今後、鉄鉱石を原料とするプロセスでの鉄鋼生産が伸びていく中、世界で備蓄が増え、そこからリターンしてくる鉄スクラップも増えてくることから、先ほど申し上げた3割（鉄スクラップ由来の粗鋼生産量）の数字は、いずれ大きくなっていかざるを得ないと思います。そのような中で必要なことは、電気炉プロセスの中で造れる範囲を拡げること、もう一つは高炉プロセスの中で鉄スクラップの消費を上げていくことだと思います。いずれにしても消費の領域を拡げていくことにより出てくるのが、鉄スクラップの品質に対する期待です。ご存知の通り、ほとんどの普通鋼製品の98%はFeで構成されており、残りの2%弱のところにはいろいろな元素が入り込み、加工法とのセットでいろいろなパフォーマンスを出しているわけです。普通鋼鋼材、特に建設に関わる鋼材は、98%がFeであることを活用して造っている領域であり、残りの2%弱をどのようにコントロールして造り込むかというところまでは、なかなか拡げられていないと思います。将来、3割の領域を拡げていこうとすると、残りの2%のところの精度に期待することになると思います。これは電炉だけでなく高炉で鉄スクラップを使用する場合でも同様です。そのような中、足元で出てきているのが雑品の処理の問題です。今後、鉄リサイクルの用途拡大を目指していく上で、鉄スクラップ品質の劣化が起きることは大きな障害になります。回収システムの中で、分別する人手の問題やシュレッダー残渣の処理問題など大きな課題があることは認識しておりますが、放置しますと鉄の純度が下がってしまいます。新断の構成比を上げる動きもありますが、30年先の新断がどうなっているのかはわかりませ

ん。そうしますと、鉄スクラップリサイクルで、高度な鉄鋼製品を造ることが困難になってきます。その前にリサイクルシステムとして手を打つ必要性が高まってきたことだと思えます。雑品問題もありますので、一つの契機として手を打つ時期に来たと考えております。

鉄鋼製品への資源循環を担う共通の立場から、事業の継続的な発展に向けて、日本鉄リサイクル工業会の皆様と共に歩んでいくことを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

本日はおめでとうございます。

以 上